

日本 DMORT ニュース第 2 号(2018 年 9 月)

【目次】

1. 当法人としての災害への対応
 - 1) 7 月西日本豪雨災害への対応
 - 2) 北海道胆振東部地震への対応
2. 愛知県支部の活動について
3. 当法人の様々な活動報告
 - 1) 日本災害看護学会第 20 回年次大会ブース展示
 - 2) 平成 30 年度滋賀県総合防災訓練
4. 関連活動について（全国警察への啓発活動）
5. 今後の訓練・研修会の予定について
6. 事務局からのお知らせ

#####

1. 当法人としての災害への対応

1) 7 月西日本豪雨災害への対応

2018 年 7 月の豪雨災害では 7 月 6 日に 8 府県で大雨特別警報が発表され、7 日から 8 日にかけてさらに 3 県が追加されました。11 府県に大雨特別警報が発表されるという未曾有の事態となり、広島県で土石流災害が、岡山、愛媛県では河川の氾濫が発生したことにより多数の犠牲者がでることになりました。

これに対して日本 DMORT は以下のような対応をしました。

*7 月 9 日（月）

兵庫県警被害者支援室を通じて、岡山県警、広島県警に DMORT へのニーズがないかを確認してもらいました。岡山県警からは現場が混乱しており受入が難しい、広島県警は検討中との回答を得ました。法人の正会員には連絡して、出動となった場合には数名の派遣が可能なことを確認しました。

*7 月 10 日（火）

昼頃に広島県警の現場担当者より電話があり、「現場活動の申し出はありがたいが、受け入れは難しい。交通アクセスが悪く、警察署に駐車場を確保することもできない。検視検案は警察署で行っているが、警察署の中では多くの業務が行われており、DMORT を受け入れる場所もない。今回は見送りたい」との回答を得ました。兵庫県警からいろいろ働きかけていただきましたが、現場には余裕がなかったようです。

村上副理事長が DMORT 家族支援マニュアルの一部を改定した「豪雨水害版」の作成に取りかかりました。

*7 月 11 日（水）

DPAT 事務局と連絡をとり、県警とのやりとりなどの現状報告と、DMOIRT へのニーズがあればいつでも対応することを伝えました。

兵庫県警被害者支援室を通じて、愛媛県警にも連絡をとってもらいましたが、「ご遺体は家族のもとに帰っており、不明者は発見の目処がたっていない。この状況で DMORT の出番はなさそう」との返事を頂きました。

*7月12日(木)

改定マニュアルをホームページに公表しました。

*7月19日(木)

広島現場からは種々の DMORT ニーズに関する情報が入ってくるので、その調査のためにチーム派遣を決めました。広島県と調整に入りましたが、DMORT の受入を断られて断念しました。

今回の水害ではすでに協定の締結された兵庫県警を通じて各県警に打診しました。兵庫県警からは DMORT の説明や資料を送るなどの働きかけをしていただきましたが、混乱した現場では新たな組織を受け入れることは難しいようです。改めて、事前協定の必要性を認識しました。

2) 北海道胆振東部地震への対応

平成30年(2018)9月6日03:07に震度7を記録する北海道胆振東部地震が発生しました。広範囲で大規模土石流が発生しており被害の大きさがメディア報道からも想像できました。発災直後から吉永は別組織で災害救助犬の派遣調整を行っていましたが、自組織でヘリコプターの手配ができない限り救助犬が現地へ入ることは難しいとの情報を得ており救助犬も待機状態でした。アクセス確保の困難な状況が現地から伝わってきました。

9月7日(金)

日本 DMORT として2, 3名の派遣人員の確保ができそうなことを確認して兵庫県警被害者支援室に状況を伝え、北海道警への打診を依頼しました。

9月10日(月)

兵庫県警被害者支援室を通じての返事は「発災直後の状況では受入は難しい。」とのことでした。混乱の中ではどのような団体かを周知することは難しいためです。今回も兵庫県警からは DMORT の説明や資料を送るなどはしていただきました。

DPAT 事務局からは現場に DMORT の情報提供をしていただきました。

今回も北海道版マニュアルを作成し、ホームページ上で公表しました。

9月12日(水)

北海道庁の東胆振医療調整本部の現場担当者より電話があり、「日本 DMORT のホームページで北海道版のマニュアルを確認した、ありがとうございます」とのことでした。DMORT を要請する予定はないが、どのような組織か確認しておきたいということで説明をしました。

その後、北海道立精神保健福祉センターの現場担当者より電話があり「遺族ケアのために DMORT を依頼するとどのような手続きが必要か。避難所にいる遺族のケアが必要で、DMORT に来てもらうことは可能か。」という内容でした。出動は可能なことを伝えたところ、道庁本部と相談することになりました。

夕方に道庁本部より連絡があり「現在遺族支援で緊急に DMORT を要請する状況ではない。」との返事があり、北海道への派遣調整は終わりました。

今回の災害でも現場には DMORT のニーズがありながら、組織だけの受け入れ体制ができていないという結果に終わりました。災害支援システムは大きく変化しています。その中で DMORT 位置づけを見定める必要があります。

(理事長：吉永和正)

2. 愛知県支部の活動について

この度、今年度の社員総会の承認を得て日本 DMORT 愛知県支部を立ち上げました。支部長は名古屋掖済会病院副院長の北川喜己先生で、副支部長は名古屋医療センターの薄井美穂さん（旧姓立松）です。事務局を名古屋掖済会病院救命救急センターにおき、愛知県で開催される訓練や研修会の調整を行なっていきます。また、愛知県では、日本 DMORT が 2018 年 4 月に愛知県被害者支援連絡協議会の正式会員になりました。こちらでも、関係機関と連携できればと考えています。

最近の活動は、2018 年 10 月 4 日に開催される中部国際空港消火救難・救急医療活動総合訓練の準備になります（編集担当注：関西国際空港一部閉鎖の影響で中止となりました）。本年 7 月には、過去 3 年間の訓練を振り返り、遺体安置所の設営・運営方法に関する事前打ち合わせを、中部国際空港・県警・日本 DMORT 愛知県支部で実施しました。そして、8 月に机上訓練に参加し、9 月には訓練に参加する看護学校との打ち合わせを予定しています。

また、詳細はまだ決まっておきませんが、2019 年 1 月 11 日に豊田スタジアムで開催される国民保護共同実働訓練にも参加予定となっています。

そして、2019 年 2 月 10 日には、名古屋掖済会病院におきまして、DMORT 養成研修会を開催予定です。これからもご指導宜しくお願い致します。

（日本 DMORT 愛知県支部事務局
連絡先メールアドレス：aichidmort@gmail.com）

【昨年の中部国際空港消火救難・救急医療活動総合訓練での DMORT 活動の様子】



3. 当法人の様々な活動報告

1) 日本災害看護学会第 20 回年次大会ブース展示

2018 年 8 月 10 日～11 日に開催された日本災害看護学会第 20 回年次大会において、日本 DMORT は社団法人となって初めて、組織ブース展示に参加いたしました。日本災害看護学会は 1995 年の阪神・淡路大震災後に発足され、第 1 回年次大会が 99 年 7 月に兵庫県立看護大学南裕子大会長のもとで開催されたのち、回を重ね、今回は兵庫県立大学地域ケア開発研究所の増野園恵大会長の指揮のもと開催に至りました。今回の年次大会は、震災の記憶が残る神戸市で開催されたことや、直前に西日本

豪雨災害が発生したことにより、学会入会者や参加者が顕著に増加し、1540名と多数の方にご来訪いただきましたため、日本DMORTのブースにも多くの皆様に足を止めていただくことができました。

これまでの日本DMORTの活動を紹介する機会になればと考え、我々はニューズレター1号とチラシ各300部を印刷しましたが、余るかもしれないという心配をよそに配布数は予想を大きく超え、初日の午後には説明担当者より「残りが少なくなっています」との報告を受けたほどでした。

また、来訪者からの問い合わせも数多く、「研修に参加したい」「DMORTのメンバーとして活動したい」「学生の授業にDMORTのグリーンケアを取り入れたい」「具体的な研修日程を知りたい」などの声をいただきました。自然災害が頻繁に発生し、貴重な命が失われていくことの多い昨今、遺された家族へのグリーンケアへの関心の高さを改めて感じた次第です。

反省点としては、展示ブースが限られていたため、日本DMORTの成り立ちを説明したパネルが見づらくなってしまったことです（写真参照）。高まるグリーンケアへの関心を受け、今後は、展示方法の改善や問い合わせ対応の拡充を進めていきたいと考えております。

また今回の展示では、前日の設営準備から終了後の撤収までご尽力くださった浅田さんはじめ、来訪者の対応をしてくださった皆様にご協力をいただきました。この書面をお借りして、謹んで感謝申し上げます。

あわせて、被災地の一日も早い復興と、被災者の方々へお悔やみ、お見舞いを申し上げます。



(理事：山崎達枝)

2) 平成 30 年度滋賀県総合防災訓練

平成 30 年 (2018 年) 9 月 2 日 (日) 8:00 から実施された滋賀県総合防災訓練に参加しました。DMORT は湖南市保健センターで行われた検視・検案および遺族対応訓練でシナリオに基づいた遺族対応訓練を行いました。

参加者は日本 DMORT から 4 名 (吉永、山崎、河野、薄井)、大津赤十字病院から看護師 4 名、おうみ犯罪被害者サポートセンターから 4 名 (家族役)、滋賀県警から 5 名、日本 DMORT 会員の見学者 5 名でした。訓練の途中で滋賀県知事の視察があり、吉永から DMORT について説明しましたが「とても大切なことですね」というコメントを頂きました。

訓練の設定は震災による被災者で、事例(1)は 45 歳、男性。車を運転して通勤途上で建物の崩落が起こり受傷した、それを妻と被害者の兄が探しに来るという設定です。事例(2)は 14 歳、男性。登校途中で倒れてきたブロック塀により受傷、それを両親が尋ねてくるという設定です。

昨年の反省も踏まえて、警察の受付とその後の流れや部屋の設定などは現実の対応に近いものになっていました。(写真 1) (写真 2) 家族役を担当したのが、おうみ犯罪被害者サポートセンターのスタッフの方々に、事前の綿密な役作りと、状況に応じた臨機応変の対応でとてもリアルな演技でした。そのため、DMORT 側も現実に近い対応ができたと思います。

今回の訓練の反省会でもっとも印象的であったのは父親役の男性が「「本当はもっといっぱいごねようかと思っていた。しかし、ごねられなかった。何を言っても黙って受け止めてくれた、気持ちの大きさが感じられた。だから途中からごねるのを止めた」(山崎メモより)と発言されたことでした。訓練とはいえ、私たち DMORT が目指すことの成果を上げることができたと言えます。

関係者の皆様には、この場を借りて、お礼申し上げます。

(理事長：吉永和正)

【写真 1：面会後に妻と兄に状況説明をしている場面】



【写真 2：納棺された男児に両親が面会する場面】



4. 関連活動について（全国警察への啓発活動）

われわれ DMORT が遺体安置所で活動するためには、被災地の都道府県警察との連携が必須となります。前号で兵庫県警とは「災害等発生時における死亡者家族支援に関する協定」を締結したことを報告しましたが、それまでも警察に対しては様々な形でアプローチしておりました。

理事の黒川雅代子と村上典子は京都府警の「被害者等支援室アドバイザー」に就任しておりますし、警察からの依頼で、DMORT に関することも含めての様々なグリーフケアに関する講演や研修会を行ってきておりました。中でも特筆すべきは警察庁が東京で開催する全国からの警察官等を対象とする研修会です。

ずいぶん前にトラウマティック・ストレス学会で DMORT について発表した際、警察所属の臨床心理士さんが関心を持ってくださり名刺交換し、以後も DMORT 研究会時代のニュースなどを送っておりました。その方が警察庁の犯罪被害者支援室の担当になった際、全国の警察官を対象とする研修会「被害者カウンセリング技術（上級）専科」で、「DMORT の講義とロールプレイの研修会をしてくれないか」と村上にお声がけくださったのが最初でした。法人化する少し前の 2017 年 5 月、27 名の全国警察の犯罪被害者支援部門カウンセラーを対象に 80 分の講義と 80 分のロールプレイ研修をさせていただきました。続けて今年度も 2018 年 5 月 8 日、警察官対象（27 名）の「被害者カウンセリング技術（初級）専科」も行いました。手前味噌ながら、多くの警察官の方が興味を持ってくださった手応えをひしひしと感ずることができました（その際のご縁で、今年 10 月には千葉県警で同様の研修会にお招きいただいています）。

とは言え、西日本豪雨災害や北海道胆振東部地震などの実際の災害では、なかなか現場へのチ

ーム派遣に結びつかなかったのが残念ながら現実です（マニュアルは「北海道地震版」として9月10日に改訂版をHPに公開しましたが）。それでも、こうした講演や研修を通じた広報活動を地道に続けていくことが道が開ける一歩になると考えております。

（副理事長：村上典子）

5. 今後の訓練・研修会の予定について

1) DMORT 養成研修会の開催

たくさんの方達から「次の研修会の開催は？」との問い合わせをいただいております。お待たせいたしました！以下の2つの研修会の開催が決定しております。

A. DMORT 養成研修会 IN 新潟

新潟大学医学部災害医療教育センターの佐藤栄一先生のご厚意で、同センターとの共催で研修会を開催することになりました。

日時：2018年12月2日（日）9～17時（予定）

場所：新潟医療人育成センター（新潟大学旭町キャンパス内）

申し込み先：新潟大学医学部災害医療教育センター

詳細は同センターホームページをご覧ください。

<https://www.med.niigata-u.ac.jp/disaster/event/index.html?evntId=181201>

受付は同センターで10月1日から行いますが、受講修了証は当法人から発行します。内容は今までの研修会とだいたい同じですが、一部ブラッシュアップしており（熊本での活動や訓練の様子などを追加）、今までの研修会の既受講者の方で希望者は「タスク」という形で参加可能です（謝礼などは出ませんし、交通費などは自己負担していただきます）。こちらは当法人までお申し込みください。

担当者：村上典子 (n-murakami@kobe.jrc.or.jp)

B. 第22回 DMORT 養成研修会

日時：2019年2月10日（日）9～17時（予定）

場所：名古屋掖済会病院

申し込み期日等、詳細ががが決まったら、またお知らせいたします。

2) 訓練について

A. 平成30年度中部国際空港訓練の中止

平成30年10月4日（木）に予定されていた平成30年度中部国際空港消火救難・救急医療活動総合訓練は関西国際空港の被災の影響で中止となりました。訓練場所に予定していた貨物エリアが臨時の運用に提供されており空きスペースがない状態となっています。復旧の目処がたっておらず長期化することが予想されることから9月14日に中部国際空港(株)より訓練中止の連絡がありました。

中部国際空港訓練は毎年行われており中止となったのは平成21年(2009)10月に台風の直撃で中止になって以来のことです。これまで準備に協力下さった方々にはお礼を申し上げるとともに、今後ともご協力のほどお願いいたします。

B. 平成 30 年度大阪国際空港（伊丹空港）航空機事故対策総合訓練

大阪国際空港（伊丹）災害訓練が下記の要領で実施されます。この中で DMORT 訓練も行われます。

日時：H30 年 11 月 15 日（木） 13:45～15:45 （受付は 12:45～13:20 まで）

場所：大阪国際空港制限区域内

見学を希望の方は information@dmort.jp へお知らせ下さい。なお、後日各種資料（Word, Excel, PDF 等）をメールでお送りしますので、これらの受信が可能なメールアドレスから申し込んでください。申込みの締め切りは 10 月 10 日（水）といたします。制限区域内に入るのに、事前登録のない方の参加は出来ません。

6. 事務局からのお知らせ

1) 正会員と登録会員について

基本的には入会いただける方は「登録会員」となります。正会員は従来の世話人や、今までに訓練に参加くださったり、研修会のタスクをして下さったり、積極的に運営に関わって下さる意思のある方などで、理事から推薦させていただいております。

8 月末現在での会員状況をお知らせします。理事 5 名、正会員 21 名、登録会員 83 名、賛助会員 3 名（団体）で、その他に 8 名の方から計 157,000 円の寄付をいただいております。

ありがとうございました。

2) 理事名簿

理事長：吉永和正（協和マリナホスピタル院長）

副理事長：村上典子（神戸赤十字病院心療内科部長）

理事：長崎靖（兵庫県監察医務室）

山崎達枝（東京医科大学）

黒川雅代子（龍谷大学短期大学部准教授）

監事：鵜飼卓（兵庫県災害医療センター顧問）

【事務局所在地】

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 4-15-1 協和マリナホスピタル内

電話：0798-32-1112（代） F A X：0798-32-1222

<http://dmort.jp>

E-mail：information@dmort.jp

<編集後記>

前回のニュースメール配信以後も、西日本豪雨災害や北海道胆振地震など災害が多発しております。異常な猛暑や台風もありました。本当に日本はどうなってしまうのでしょうか・・・？ DMORT が必要となるような災害は、絶対来てほしくない！でも備えが必要だとひしひしと感じております。皆様方の周囲の方にも是非入会をお誘いしてください。（日本 DMORT 研究会の会員とはまた別ですでお間違えなく）。また研修会は非会員でも受講できますが、会員の方が受講費も安くなりますので。引き続き、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

（編集担当：村上典子）